

2020年1月に日本でコロナウイルス感染者が報告された。その後、「三密を避ける」というキャッチフレーズの中、行動制限が強いられた。学生部長として学生の行動を監督するため、「三密を避ける」が遵守されているか、昼食は黙食を徹底しているか、など、複数の教員が学内を巡視したりした。しかしコロナウイルス感染症感染者数が激増し、登校も制限され、遠隔での授業展開となった。いわずとも学生活動の一つであるサークル活動、学外での活動の制限も強いられた。しかし感染者数が徐々に減少し、2023年5月8日から感染症法上の位置づけが5類感染症になり、行動制限も緩和された。

そのような中、2020年以降、コロナ禍においてオープンキャンパスは、WEBで展開していたが、2023年7月15日には、対面にて開催することとなった。開催の結果、来場者は522名で、これまでの来場者数で最も多かった2016年度の493名を上回った。来場者の内、県外からは12名、離島からは19名の方が参加していた。そのオープンキャンパスでは学生ボランティアの活動も目を引いた。キャンパスツアーは1回につき2グループに別れ、各グループ学生が2名で対応し、合計4回実施された。また各領域のブースでも学生たちは来場者への説明に取り組んでいた。学生たちからは、「自分たちにとってもいい勉強になった。先輩が説明したり、実技を見せていたので、このようなことを学んでいくんだなということが分かった」や「もっと勉強しないといけない。高校生に聞かれても答えられるようにしたいと思った」などの反応が見られた。

また2023年9月23日～9月24日には看大祭が開催されることとなった。しかし在校生に看大祭を経験した学生はいなかった。そのため、学生会の既卒生が在學生に看大祭の引継ぎ作業を行って、祭りを盛り上げていた。また学生会は担当班を分けて作業に取り組んでおり、学生会に保管された記録簿等で不足している部分や詳細については、大学事務局や学年担当教員に問い合わせ、連携して事業を行っていた。今年度は対面での実施開催をメインとして、後夜祭や大規模な学内周辺のスポンサー活動は行わないこととなり、学生たちは広報活動として、実施に関してのお知らせや騒音、駐車場に関しての連絡を学内周辺の住民に行っていた。また実施にあたり与儀町づくり協議会、寄宮中学校吹奏楽部、同窓会、JAZZバンドなど外部の方々との連絡調整、電気工事の会社、移動販売者の出展調整、レンタル業者との調整、那覇市保健所、那覇市消防など、外部機関との連絡も行っており、無事、看大祭を終えることができていた。

コロナ禍の課外活動を振り返って

行動制限が解除されていく中で、学生たちは以前の活動へと戻っている。コロナ禍では活動制限の一環として、体育館でのサークル活動も皆無となった時期もあった。登校しても、下校後は速やかに自宅に帰宅することが促されていた。しかしその制限も解除され、現在はいつでも学生と会うことができる。学生たちものびのびと課外活動を謳歌している状況と思われる。しかし感染者数は0ではない。このことを認識しつつ、学生たちの課外活動を活性化していけたらよいと考える。
